

□特 集

平成 25 年人口動態統計（概数）の概要

合計特殊出生率が 0.03 ポイント上昇

—全国は 0.02 ポイント上昇—

悪性新生物（がん）・脳血管疾患による死亡率が増加

—悪性新生物による死亡が総死亡数に占める割合の 30%を超える—

自然減少数は昨年に引き続き 5 千人を超える

—自然減少率は 0.1 ポイント上昇したものの、依然として自然減少が続く—

府健康福祉総務課

はじめに

人口動態統計は、出生・死亡・婚姻・離婚及び死産の 5 種類の「人口動態事象」について、その実態を把握し、人口及び厚生労働行政施策の基礎資料を得ることを目的として実施されています。

出生、死亡、婚姻及び離婚については、「戸籍法」による届出書から、死産については、「死産の届出に関する規程」による届書等から、その届出を受けた市区町村長が調査票を作成します。

これらの調査票は、保健所長、都道府県を經由し、厚生労働省に提出されます。

厚生労働省では、これらの調査票の毎月分及び年間分を集計して、人口動態統計月報（概数）、人口動態統計年報として公表しています。

この概要は、平成 25 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの間における京都府分について取りまとめたもので、数値は概数です。

1 出 生

—出生数は前年より減少、出生率は昨年と同じ—
平成 25 年の出生数は、2 万 104 人で前年より 7 人減少しました。

出生率（人口千対）は 7.8 で、前年と同じでした。

出生数の推移をみると、第 1 次ベビーブーム期（昭和 22 年～24 年）の、団塊の世代が誕生した時期は 5 万人台で推移していましたが、その後急激に減少し、昭和 32 年には 2 万 6,688 人まで低下しました。その後、昭和 41 年（ひのえうまの年）を除いて増加に転じ、昭和 48 年には第 2 次ベビーブーム期のピークを迎えましたが、以後減少傾向が続いています。

（表 1、図 1）

表 1 人口動態総覧、対前年比較

	実 数					率		率（全国）	
	平成 25 年	平成 24 年	増減	増減割合（%）	平均発生間隔	平成 25 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 24 年
出 生	20,104	20,111	△ 7	0.0	26 分 8 秒	7.8	7.8	8.2	8.2
死 亡	25,331	25,416	△ 85	△ 0.3	20 分 44 秒	9.8	9.8	10.1	10.0
（乳児死亡）	52	40	12	30.0	168 時間 2 7 分	2.6	2.0	2.1	2.2
（新生児死亡）	29	24	5	20.8	302 時間 4 分	1.4	1.2	1.0	1.0
自 然 増 減	△ 5,227	△ 5,305	78	△ 1.5	…	△ 2.0	△ 2.1	△ 1.9	△ 1.7
死 産	440	464	△ 24	△ 5.2	19 時間 54 分	21.4	22.6	22.9	23.4
婚 姻	12,745	13,189	△ 444	△ 3.4	41 分 14 秒	4.9	5.1	5.3	5.3
離 婚	4,581	4,646	△ 65	△ 1.4	1 時間 54 分	1.78	1.80	1.84	1.87

注 1 平成 24 年は確定数

2 出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率は日本人人口千対、乳児・新生児死亡率は出生千対、死産率は出産（出生＋死産）千対

3 算出に用いた京都府の人口は、平成 25 年 = 2,576,000 人（「平成 25 年 10 月 1 日現在推計人口（日本人）」）

4 自然増減：出生数から死亡数を減じたもの

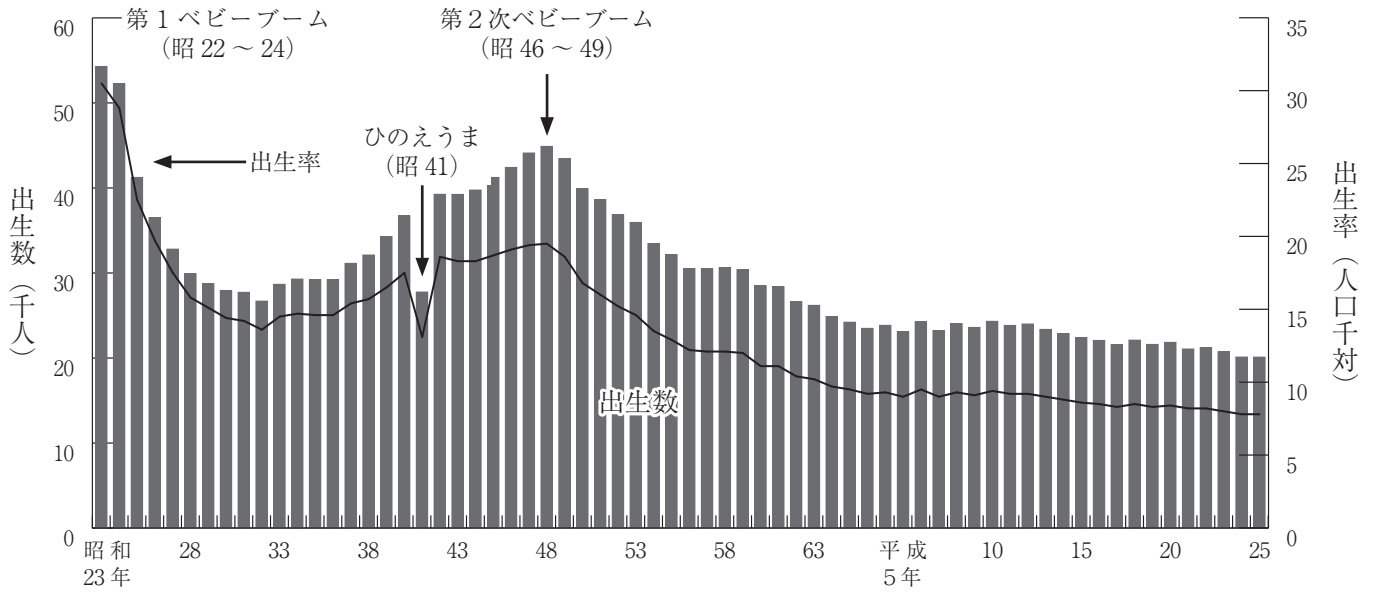
5 乳児死亡：生後 1 年未満の死亡数

6 新生児死亡：乳児死亡のうち、生後 4 週未満の死亡数

7 死産：妊娠満 12 週以後の死産の出産

8 平均発生間隔：1 件当たりの事象発生が、どれだけの間隔をもって発生したかを表したもの

図1 出生数・出生率の年次推移



合計特殊出生率は 1.26

—前年より 0.03 ポイント上昇
全国は 0.02 ポイント上昇—

平成 25 年の出生率を母の年齢階級別にみると、最も出生率が高かったのは、30～34 歳の層で、出生率は 97.1（出生数 7,381 人）となりました。

30～34 歳の出生率は、昭和 53 年以降上昇傾向にあり、平成 12 年には、25～29 歳の層を上回り、その後も出生数・率とも第 1 位となっています。

第 2 位は、25～29 歳の層で、出生率は 67.1（出生数 5,031 人）となりました。25～29 歳は昭和 47 年（出生率 213.8）をピークに低下傾向が続いています。

第 3 位は 35～39 歳の層で、出生率 52.9（出生数 4,865 人）となり、上昇傾向が続いています。

第 4 位は 20～24 歳の層で出生率 20.2（出生数 1,557 人）となり、出生率については、平成 24 年までは減少傾向が続いていましたが、平成 25 年は微増となりました。（表 2、図 2）

図2 母の年齢階級別出生率の年次推移（人口千対）

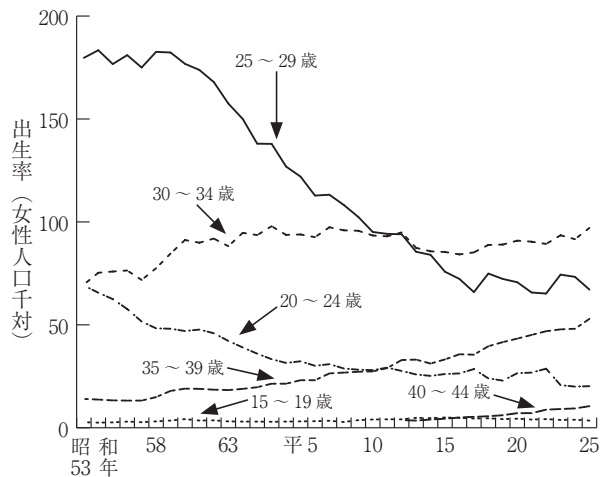


表2 合計特殊出生率の推移

年次	京都府	全国
昭和 40 年※	2.02	2.14
45 ※	2.02	2.13
50 ※	1.81	1.91
55 ※	1.67	1.75
60 ※	1.68	1.76
平成 2 年※	1.48	1.54
7 ※	1.33	1.42
12 ※	1.28	1.36
17 ※	1.18	1.26
18	1.19	1.32
19	1.18	1.34
20	1.22	1.37
21	1.20	1.37
22 ※	1.28	1.39
23	1.25	1.39
24	1.23	1.41
25	1.26	1.43

※は国勢調査年

合計特殊出生率とは、その年の 15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合計した値で、その年の女性の年齢別出生傾向が将来も変わらないと仮定した場合、1 人の女性が一生の間に生む平均の子供の数に相当します。

2 死 亡

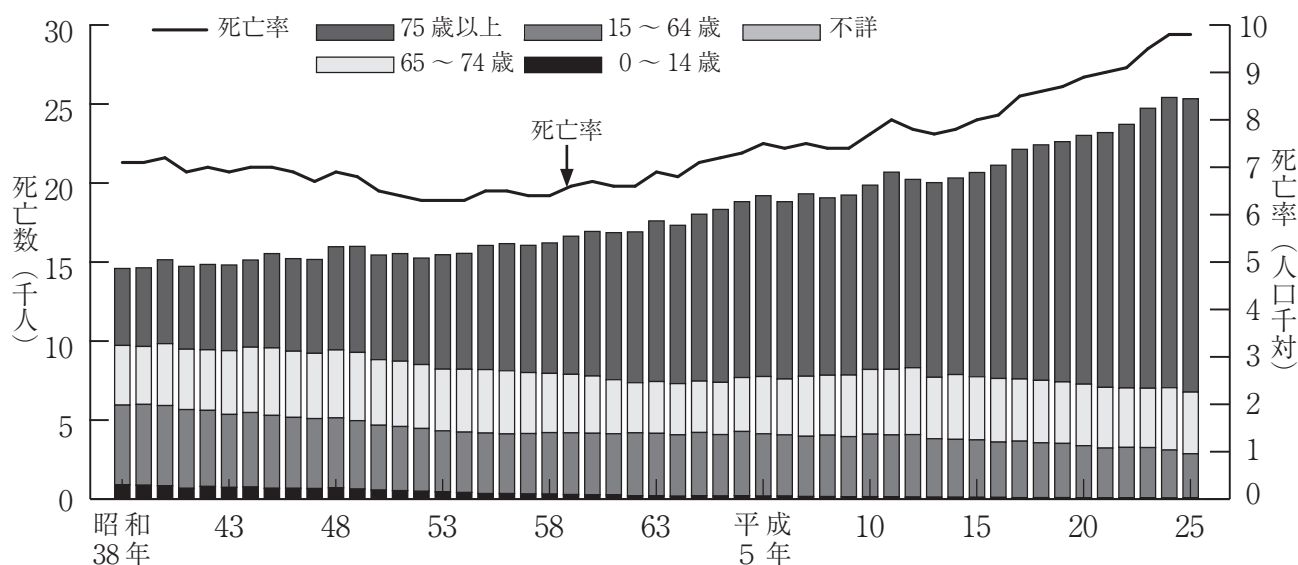
ー死亡数は減少、死亡率は前年と同ポイントー

平成 25 年の死亡数は 2 万 5,331 人で、前年より 85 人減少し、死亡率（人口千対）は 9.8 で、前年と同じでした。（表 1）

死亡数の推移をみると、昭和 44 年以降 1 万 5 千人～1 万 9 千人台で推移していましたが、平成 11 年に 2 万人台となって以後、ゆるやかな増加傾向が続いていましたが、平成 25 年は微減となりました。

年齢別死亡数では、15～74 歳の世代は前年を下回りましたが、14 歳以下、75 歳以上の世代は増加しました。死亡率は昭和 35 年（死亡率 7.7）以降低下傾向にあり、52～54 年に 3 年連続 6.3 と戦後最低を記録した後、ゆるやかな上昇に転じ、平成 13 年（同 7.7）以降は増加傾向が顕著になり、平成 24 年、25 年は 9.8 となりました。（図 3）

図 3 死亡数・死亡率の年次推移



3 死 因

ー3大生活習慣病のうち、悪性新生物(がん)・脳血管疾患による死亡率が増加ー

死因順位の第 1 位は、悪性新生物（がん）で、6 年連続で増加し、平成 25 年の死亡数は 7,645 人で、前年より 75 人増加、死亡率（人口 10 万対）は 296.8 で、前年より 3.8 ポイント上昇しました。悪性新生物による死亡が総死亡数に占める割合は 30.2%でした。

第 2 位は心疾患の 4,126 人で、前年より 191 人減少、死亡率は 160.2 で、前年より 6.9 ポイント減少しました。第 3 位は肺炎で、平成 25 年の死亡数は前年より 67 人減少の 2,414 人、死亡率は 2.3 ポイント減少し、93.7 となりました。

第 4 位は脳血管疾患の 2,188 人で、死亡率は 84.9 となり、前年より 0.3 ポイント上昇しました。

第 5 位は老衰で、死亡数は 1,302 人、第 6 位は不慮の事故で、死亡数は 579 人でした。自殺は、死亡数が 498 人となり、前年より 51 人増加しました。自殺死亡率は 19.3 でした。

また、悪性新生物、心疾患及び脳血管疾患の 3 大生活習慣病による死亡が総死亡数に占める割合は、55.1%となりました。（表 3、図 4）

ー悪性新生物(がん)部位別トップは「肺」ー

悪性新生物（がん）の主な部位別死亡率（人口 10 万対）をみると、第 1 位は前年に引き続き「肺」で死亡率は 63.7 で、前年より 0.1 ポイント減少しました。

平成 8 年から平成 24 年までは 2 位となっていた「胃」の死亡率は 38.1 で前年より 1.8 ポイント減少し、平成 25 年は 3 位となりました。代わりに「大腸」の死亡率が 39.3 で、2 位となりました。第 4 位は「肝」で、死亡率は 26.9 で、前年より 3.3 ポイント上昇しました。

また、肺、胃、大腸の上位 3 疾患で悪性新生物死因総数の 47.5%を占めています。（図 5）

表3 死因順位

死因順位	平成25年	死亡数(人)	死亡率	死亡総数に占める割合(%)	平成24年	死亡数(人)	死亡率	全国(25年)	死亡数(人)	死亡率
第1位	悪性新生物	7,645	296.8	30.2	悪性新生物	7,570	293.0	悪性新生物	364,721	290.1
2	心疾患	4,126	160.2	16.3	心疾患	4,317	167.1	心疾患	196,547	156.4
3	肺炎	2,414	93.7	9.5	肺炎	2,481	96.0	肺炎	122,880	97.8
4	脳血管疾患	2,188	84.9	8.6	脳血管疾患	2,187	84.6	脳血管疾患	118,286	94.1
5	老衰	1,302	50.5	5.1	老衰	1,155	44.7	老衰	69,684	55.4
6	不慮の事故	579	22.5	2.3	不慮の事故	603	23.3	不慮の事故	39,435	31.4
7	腎不全	542	21.0	2.1	腎不全	572	22.1	自殺	26,038	20.7
8	自殺	498	19.3	2.0	自殺	447	17.3	腎不全	25,074	19.9
9	慢性閉塞性肺疾患	374	14.5	1.5	慢性閉塞性肺疾患	369	14.3	慢性閉塞性肺疾患	16,408	13.1
10	大動脈瘤及び解離	295	11.5	1.2	大動脈瘤及び解離	328	12.7	大動脈瘤及び解離	16,073	12.8

注1 平成24年は確定数
 2 死亡率は人口10万対である。

図4 主要死因別死亡率の年次推移

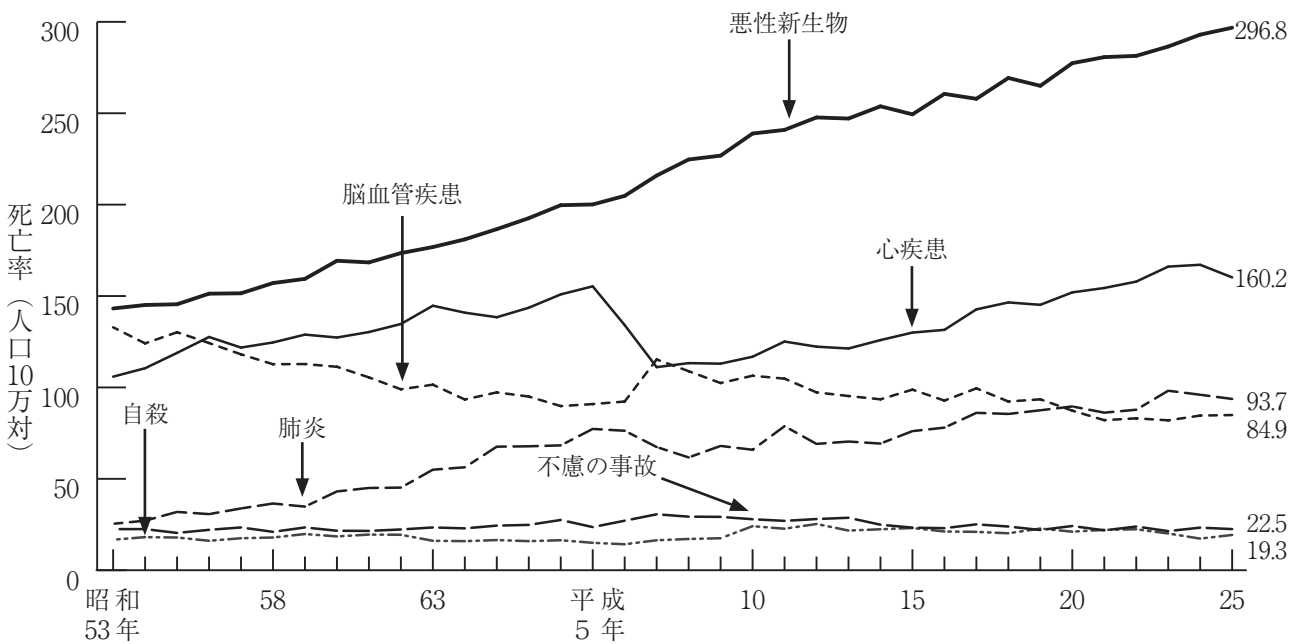
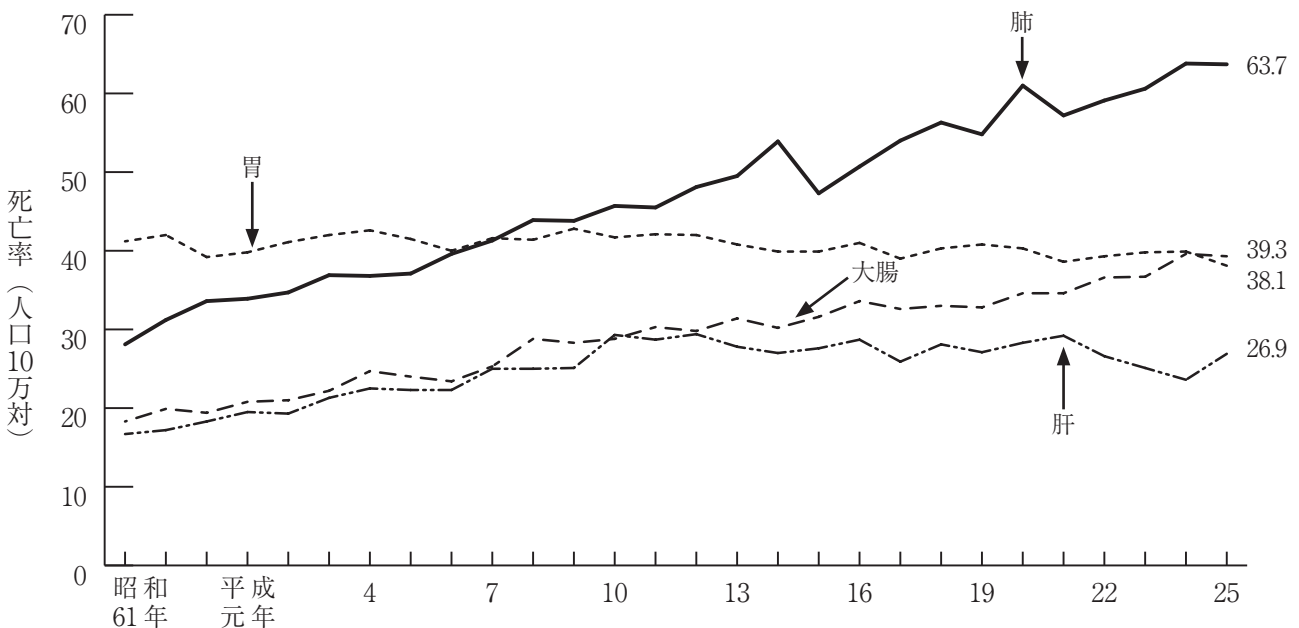


図5 悪性新生物(がん)の主な部位別死亡率の年次推移



男女別死亡率をみると、男の死亡率（人口10万対）は、「肺」が平成3年以降第1位で、25年は94.1となり、前年より1.4ポイント上昇しました。

第2位は「胃」で51.8と、前年より1.0ポイント減少しました。

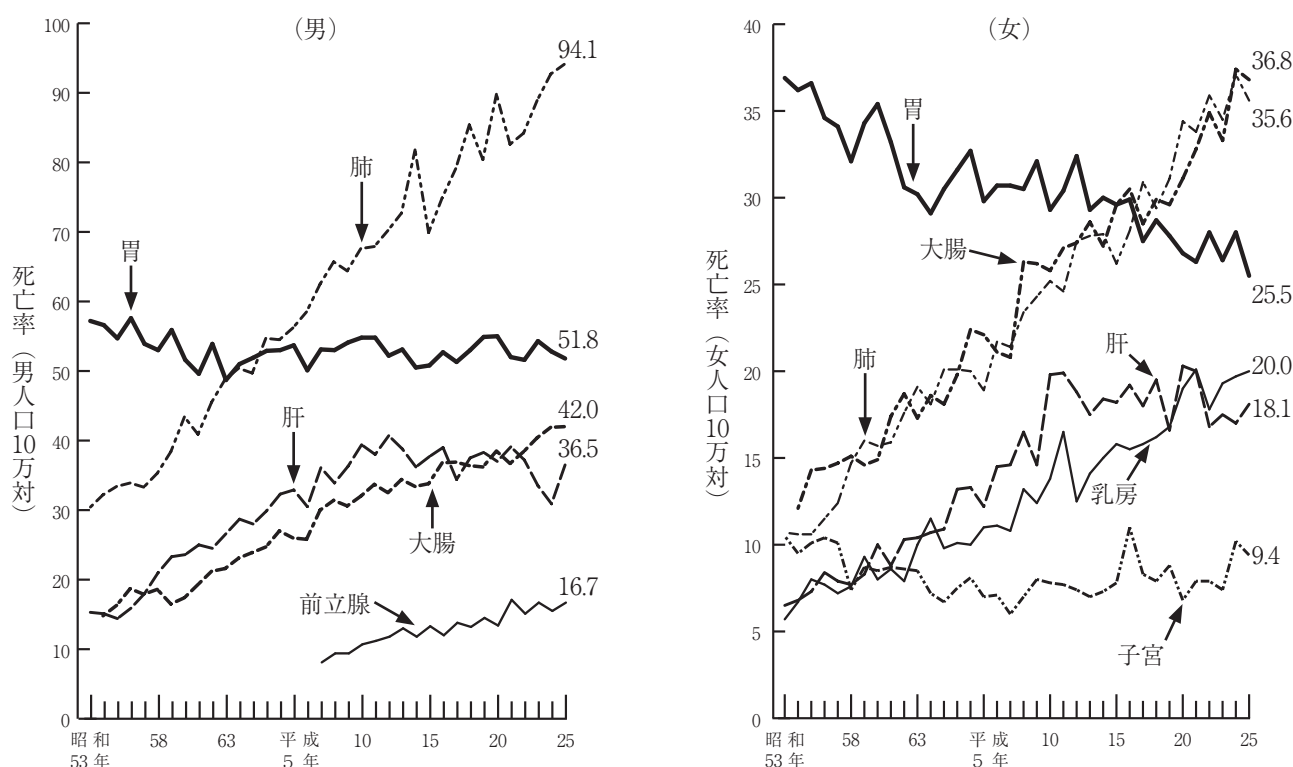
第3位は「大腸」で42.0、第4位は「肝」で

36.5となりました。

女の死亡率（人口10万対）は、36.8で「大腸」が昨年に続き第1位となりました。第2位は「肺」で35.6、第3位は「胃」で25.5となりました。

「乳房」は20.0で、平成3年以降引き続き増加傾向にあります。「子宮」は9.4で、昨年より0.8ポイント減少しました。（図6）

図6 悪性新生物（がん）の性別・主な部位別死亡率の年次推移



- 注1 文中、図5及び図6において肺とは、気管、気管支及び肺の悪性新生物である。
- 注2 文中、図5及び図6において大腸とは、結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物である
- 注3 文中、図5及び図6において肝とは、肝及び肝内胆管の悪性新生物である。
- 注4 図6において大腸の昭和53年以前の数値は、旧厚生省で集計されていないため不明である。
- 注5 図6において前立腺の平成7年以前の数値は、旧厚生省で集計されていないため不明である。

4 乳児死亡・新生児死亡

一乳児死亡率は0.6ポイント上昇、新生児死亡率は0.2ポイント上昇一

平成25年の乳児死亡数は52人で、前年より12人増加し、乳児死亡率（出生千対）は2.6で、前年より0.6ポイント上昇しました。

新生児死亡数は29人で、前年より5人増加し、新生児死亡率（出生千対）は1.4で、前年より0.2ポイント上昇しました。（表1）

5 自然増減

一自然減少数は昨年に引き続き5千人を超える一

平成25年の出生数から死亡数を減じた自然増減数は、マイナス5,227人となり、依然として自然減少が続いています。最大の減少数となった前

年からは減少幅は小さくなり、自然増減率（人口千対）はマイナス2.0で、前年のマイナス2.1から0.1ポイント上昇しました。（表1）

6 死産

—死産率は1.2ポイント減少—

平成25年の死産数は440胎で前年より24胎減少、死産率（出産千対）は21.4と、前年より1.2

ポイント減少しました。

（表1）

7 婚姻

—平均初婚年齢夫は31.3歳、 妻は29.6歳

晩婚化 緩やかに進行—

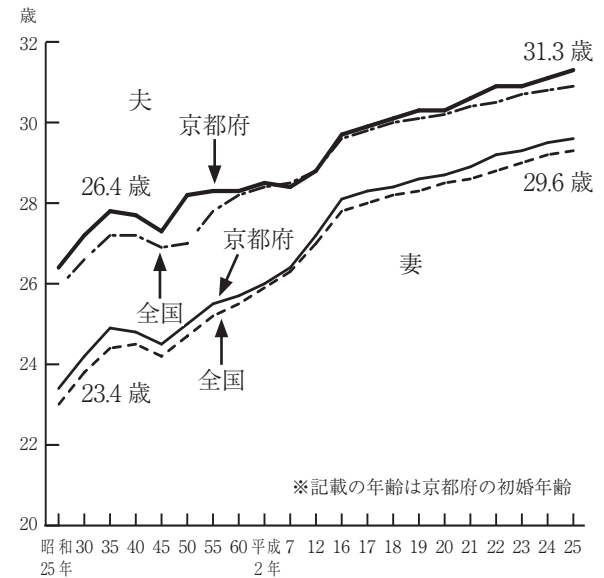
平成25年の婚姻件数は1万2,745組で前年より444組減少し、婚姻率（人口千対）は4.9で、前年より0.2ポイント減少しました。（表1）

また、平均初婚年齢は、夫31.3歳、妻29.6歳で、男性は0.2歳、女性は0.1歳前年より上昇しました。

平均初婚年齢の推移をみると、昭和25年以降は上昇傾向が続き、昭和25年（夫＝26.4歳、妻＝23.4歳）と比べると、夫は4.9歳、妻は6.2歳上昇しており、男女とも晩婚化が進んでいます。

（図7）

図7 平均初婚年齢の推移



8 離婚

—離婚件数、離婚率ともに減少—

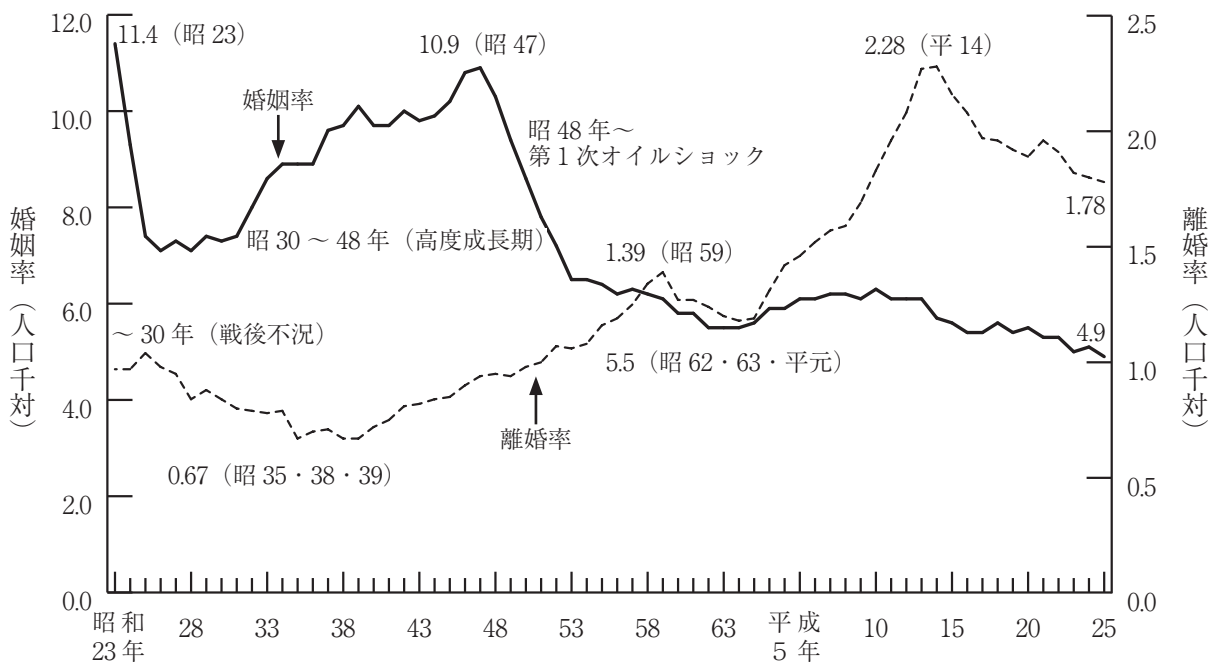
平成25年の離婚件数は4,581組で、前年より65組減少し、離婚率（人口千対）は1.78となり、前年より0.02ポイント減少しました。

離婚率の推移をみると、昭和35年、38年、39年に戦後最低（離婚率0.67）となった後上昇し、

59年以降低下していましたが、平成2年から再び上昇に転じ、平成14年には過去最高の2.28を記録し、その後は減少傾向が続いています。

（図8）

図8 婚姻率・離婚率の年次推移



第1表 人口動態（概数）保健所、市町村別（平成25年）

区 分	出生数			死亡数			乳 児 死亡数	新生児 死亡数	死 産 数	婚 件	姻 数	離 件	婚 数	自 然 増加数
	総数	男	女	総数	男	女								
総 数	20,104	10,386	9,718	25,331	12,822	12,509	52	29	440	12,745	4,581	△ 5,227		
京 都 市	11,237	5,859	5,378	13,891	6,954	6,937	19	11	233	7,765	2,582	△ 2,654		
その他の市町村	8,867	4,527	4,340	11,440	5,868	5,572	33	18	207	4,980	1,999	△ 2,573		
乙 訓 保 健 所	1,217	615	602	1,163	632	531	6	1	24	741	231	54		
向 日 市	407	208	199	445	247	198	2	1	6	266	88	△ 38		
長 岡 京 市	674	335	339	598	318	280	2	-	15	394	120	76		
大 山 崎 町	136	72	64	120	67	53	2	-	3	81	23	16		
山 城 北 保 健 所	3,257	1,649	1,608	3,728	1,954	1,774	12	9	70	1,806	826	△ 471		
宇 治 市	1,422	744	678	1,544	814	730	5	3	34	796	358	△ 122		
城 陽 市	496	251	245	744	385	359	2	1	9	347	137	△ 248		
八 幡 市	533	259	274	574	307	267	3	3	11	304	162	△ 41		
京 田 辺 市	568	275	293	517	275	242	1	1	9	216	109	51		
久 御 山 町	118	64	54	145	71	74	-	-	3	76	29	△ 27		
井 手 町	47	26	21	108	56	52	1	1	1	29	14	△ 61		
宇 治 田 原 町	73	30	43	96	46	50	-	-	3	38	17	△ 23		
山 城 南 保 健 所	1,008	511	497	938	466	472	3	2	32	437	196	70		
木 津 川 市	654	334	320	520	252	268	3	2	23	279	126	134		
笠 置 町	5	2	3	32	13	19	-	-	1	3	4	△ 27		
和 束 町	15	7	8	82	42	40	-	-	-	17	8	△ 67		
精 華 町	323	163	160	242	133	109	-	-	7	131	54	81		
南 山 城 村	11	5	6	62	26	36	-	-	1	7	4	△ 51		
南 丹 保 健 所	983	501	482	1,500	756	744	3	-	25	567	229	△ 517		
亀 岡 市	684	348	336	790	407	383	2	-	19	392	153	△ 106		
南 丹 市	225	114	111	487	229	258	1	-	5	119	53	△ 262		
京 丹 波 町	74	39	35	223	120	103	-	-	1	56	23	△ 149		
中 丹 西 保 健 所	811	415	396	944	485	459	4	2	23	439	149	△ 133		
福 知 山 市	811	415	396	944	485	459	4	2	23	439	149	△ 133		
中 丹 東 保 健 所	951	517	434	1,649	833	816	2	2	22	569	222	△ 698		
舞 鶴 市	725	385	340	1,089	548	541	2	2	18	439	172	△ 364		
綾 部 市	226	132	94	560	285	275	-	-	4	130	50	△ 334		
丹 後 保 健 所	640	319	321	1,518	742	776	3	2	11	421	146	△ 878		
宮 津 市	105	41	64	326	141	185	1	-	1	89	22	△ 221		
京 丹 後 市	373	194	179	848	438	410	1	1	6	229	92	△ 475		
伊 根 町	9	4	5	44	22	22	-	-	-	5	2	△ 35		
与 謝 野 町	153	80	73	300	141	159	1	1	4	98	30	△ 147		

